

平成 27 年度 稲毛海岸地区 区民対話会 議事要旨

1 日時 平成 27 年 11 月 21 日（日） 13:30～15:20

2 場所 稲浜公民館

3 参加者 区民 11 名、区職員 3 名
(参加区民の所属団体)

第 38 地区町内自治会連絡協議会、社会福祉協議会稲毛海岸地区部会、
第 601 地区民生委員・児童委員協議会、稲浜中学校区青少年育成委員会、
稲浜小地区スポーツ振興会、稲浜中学校地区コミュニティづくり懇談会、
老人クラブ（いなはま和楽、稲毛海岸 4 丁目さくら会、
稲毛東映マンション寿クラブ）、稲浜中学校保護者と教員の会

4 テーマ 地域団体の連携について

5 議事内容

(1)開会及び参加者自己紹介

(2)昨年度対話会の振り返り

配布資料により、昨年度対話会の主な意見及びそれに対する市の対応及び見解を説明。

(3)対話「地域団体の連携について」

主な意見は以下のとおり。

■地域団体の現状

- ・ PTA は学校の周りを 1 時間程度かけてパトロールしており、クラスごとにグループを割り振って実施している。育成委員会等の他の団体との連携はなく、独自で実施している。
- ・ 自治会でもパトロールをしているが、実施していない自治会もあり区域間での差がある。
- ・ 実施している自治会では、グループをつくり週 1 回程度の頻度で、防犯・防災対策としている。区域内でも活動が浸透しており、グループごとに実施日を割り振ると人が集まってくれている。
- ・ 夏祭りは 1, 2 丁目は合同開催であるが、他は町丁目ごとに独立して開催している。
- ・ スポーツ振興会はもともと稲毛 2 小地区の 1 団体のみであったが、稲浜小地区が独立して 2 団体となったことで、実働人数が増え、負担が減少した。実施事業によっては 2 団体間で役割分担をするなど連携を取っている。

■地域団体の連携、課題

- ・育成委員会では、学校が夏休み等の長期休暇期間にパトロールを実施しており、自治会や民生委員等と連携して3班程度に分かれて分担している。
- ・パトロールの実施場所に関しては、地区内全域をカバーしているのは育成委員会のみである状況であり、今後は地域全体で実施方法や実施場所などを調整していくが必要になってくる。
- ・自治会で開催する夏祭りは、地域全体をまとめて開催したいとの意見が出ているが、実現させるのは難しい。
- ・団体間の連携については、社会福祉協議会の実施する会議において情報共有や連携を図っている。会議メンバーには自治会長や民生委員などもおり、また複数団体の代表者を兼任している方もいることから、結果的に各団体の情報共有や連携は円滑な状況である。
- ・老人会なども自治会と一体となり活動することで、他団体との連携ができています。
- ・清掃活動などではPTAのほか、自治会や学校、子どもたちも含めた活動となっており、マラソンなどのスポーツ行事では育成委員会などが協力してくれている。
- ・地区内には古い団地と新しいマンションが混在しているが、少しずつ若い世代の担い手も出てきている。若い世代に祭りなどの実行委員をやらせると、同世代の若い方たちが手伝ってくれるようになる。
- ・一部の地区では、若い世代で構成するグループが結成され、活動している例もある。
- ・地区全体でいえば連携が取れており、まとまりがあると感じている。

(4)地域団体が連携するために ―「地域運営委員会」のご説明― 配布資料により、地域運営委員会の制度を説明

■意見、質疑

- ・地域運営交付金（統合補助金）の試算金額の内訳を知りたい。各団体への既存の補助金額を知りたい。→内訳、各団体の既存補助金額を示した資料を提供する。
- ・地域運営交付金（上乗せ分含む）の配分はどうなるのか。
→地域で話し合っただけで決めていただくことになる。地域運営交付金を地域運営委員会へ一括交付したのち、各構成団体へ配分していただく。
- ・地域運営交付金を受けた後の報告書等はどうなるのか。また、これは“交付金”と“補助金”のどちらであるのか。
→各団体ごとではなく、地域運営委員会として一本（構成する各団体まとめて）となる。また、あくまでも“補助金”であり、用途に最低限の制約はある。
- ・課題としては、会計など事務処理を誰がやるか。その部分の負担はでてくる。
- ・いずれは導入しなければならないと考えている。検討していく方針。

(5)閉会